

市長と語ろう！ふるさと郡上の未来

市民のみなさんから市長が直接、市政に対するご意見やご提言を伺い市政の運営に生かす「市長と語ろう！ふれあい懇談会」を市内7地域で開催しました。

各地域での意見交換の一部を要約して紹介します。なお、八幡、大和、美並地域は1月号で紹介します。

白鳥地域（8月26日）

【婚活支援について】

□市民：他市において、市がバスを借り上げ、郡上市のレストランで食事会、その後郡上おどりに参加し交流を深める婚活イベントがされていた。郡上市でも同様の企画をされていると思うが、その成果はいかがか。

□市長：郡上市においては、八幡町中坪に結婚相談所を設け、結婚相談員を配置し相談に応じている。また、郡上市商工会女性部と各振興事務所が連携し情報提供などを行っている。過去の成果としては、平成21年度が最も多く14組の成立があった。婚活イベントにおいても、数多く実施しており、本年度からは、男性の多い企業と女性の多い企業とがタイアップし、企業同士で出合いの場を設けていただければ助成金を出す事業を行って

いるので活用いただきたい。今後も婚活に関する事業や施策については、進めていきたいと考えている。

【子育て支援について】

□市民：農業やサービス業に従事している方などは、土日仕事のため、中学校のクラブ活動について、日常の活動や遠征時における親の送迎などが負担になっているのではないか。

□教育長：中学生のクラブ活動については、部活動とスポーツクラブに分かれている。スポーツクラブにおいては親御さんに送迎をしていただいており、費用的にも時間的にも負担になっていることは承知している。

バス代を負担する方法が良いのか、他にも方法があるのかなど検討し対応していかねければならないと考えている。

【地域の活性化について】

□市民：高齢者の増加については、2025年問題として提起され、65歳以上の1割の方が寝たきり、100歳以上の方が5万人を超えると聞いたことがある。白鳥地域としては、白山開山1300年や3年後の福井国体、

中部縦貫自動車道の整備などにより流入人口が増え、地域が活性化される良いタイミングなのではないか。

□市長：中部縦貫自動車道の整備については、市としても大野市とともに要望活動を行っている。白鳥地域においては、東海北陸自動車道との結末点として、観光客等が中部縦貫自動車道白鳥西インターで降り、町中を通って東海北陸自動車道に乗っていたかどうか、町全体をサービスエリアとしてとらえる事業展開ができないか検討していきたい。

高鷲地域（8月27日）

【地域おこしアドバイザーについて】

□市民：自治会役員経験者や市役所職員OBなど地域を熟知している方を地域おこしアドバイザーとして委嘱し、まちづくりの仕掛け人として派遣する制度を作ってはどうか。

□市長：現在、市内3地域において3年間の任期で、郡上市外の人に地域づくり応援隊として活動いただいております。地域に活力を与えてもらっているのではないかと思っております。この応援隊については、地域の受け入れ体制が整えば今後も増員を図って

いきたい。

【ふるさと納税について】

□市民：ふるさと納税について、返礼品で釣ることなどは発展性がないと思っている。返礼品については、ふるさと納税された成果が分かるものや郡上に帰ってきたいと思われるものにしてはと思う。

□市長：今年4月から郡上市においても、返礼品対応を行うこととした。返礼品としては、市内温泉利用券や宿泊券、スキー場のリフト券など郡上市に来ていただけるものなども用意している。ふるさと納税は、自治体を応援したいという思いを伝えることや、お世話になった自治体に自分の納めている税金の一部を振り向けるという考え方が原則であると思っている。

【大学の誘致について】

□市民：高鷲地域に農学や畜産を学ぶことのできる大学を作ることができないか。大学ができれば、若い人が集まり、本屋やカフェなどの商店ができると思う。また民宿などを学生寮とすれば、雇用の場にも繋がると思う。

□教育長：大学の誘致ということは確かに魅力的ではある。しかしながら、教える先生を集めること、設置基準における一定の用地や施設、運営にかかる財



源が必要であるなどから、現状としては難しいのではないかと。

【市長】かつて、大学の誘致は企業誘致と同様に流行ったことがある。地方自治体が多額の費用を出して私立大学の誘致や公立大学を設立し、地域へ若い人たちに来てもらおうと取り組まれていた。しかし、18歳人口が減少し、大学は学生集めに苦勞し定員割れや閉校しているところもある。郡上市における大学誘致の可能性はゼロではないと思っているが、今ある大学のクラブ活動を行う施設や合宿施設を造っていただくなどの可能性はあるのではないかと考える。

明宝地域（9月1日）

【空き家対策について】

【市民】空き家には、移住促進のための利活用といった面と、朽ち果てた家屋をどうするかといった課題がある。市では、リフォームに関する予算を組まれているようなので、空き家対策の推進をお願いしたい。また、取り壊し等に関しても法的な規制などの問題もあると思うが、スムーズな取り壊し等ができるよう検討してほしい。

【市長】活用できる空き家については、リフォーム等の経費を

助成する制度を設けているので、都会からの移住促進の手助けとなるようにしていきたい。

また、取り壊し等が必要な空き家については、空き家対策特別措置法という法律が施行され、一定基準による空き家は特定空き家として除去等を所有者に勧告することや、行政代執行ができるようになったので、今後、市としても対応を検討していきたい。

【地域づくりに関わる人材について】

【市民】地域づくり活動の中で一番の課題は、人材不足である。地域協議会等で活動されている方もそれぞれが仕事を持っている中で活動されているため、限界がある。商品開発や販売、PRなどを専門的にできる人を派遣することができないか。

【市長】明宝地域としては、応援隊として3名派遣している。今後受け入れ体制が整えられれば、さらに増強していきたいと考えている。

【道の駅について】

【市民】「道の駅明宝」は、今年2月に国土交通省から、重点道の駅候補として認定された。明宝地域の玄関口に位置する「道の駅明宝」を観光客がもつと訪れるように、また地域の利

和良地域（9月8日）

【獣害について】

【市民】15年ほど前から補助金を使って、電気柵設置等を行い、獣害対策を行っているが、猪や鹿が多く収穫期には大変な状況となっている。農家の減少や高齢化により農業を行うことができない人も減ってきている。土地が荒れると非常に寂しく、荒地地とならないよう努力しているが、支援をお願いしたい。

【市長】獣害対策については、鳥獣の侵入を防ぐとともに、もっと根本的に個体数調整を行っている。平成25年度の実績として、鹿を4千頭獲っており、少しは成果があったのではないかと考えている。今後も猪、鹿、猿などの有害鳥獣の個体数調整は、強力に進めるとともに、支援制度を活用いただきながら遊休農地を減らしていきたい。

【市民】地域協議会では、移動販売業者の方、和良地域の仕出し屋の方との間で、高齢者世帯や独居老人世帯に対する見守り活動に関する協定を結ぶ計画をしている。法制度や活動のノウハウなど指導をお願いしたい。

【市長】高齢者や独居の方の異

変を察知するということは、非常に重要であり、それぞれの方が、各家庭を訪問される際にできるだけということが大切であると考えている。連携事業については、ぜひ実現していただきたいと思っており、行政としてもどのような支援ができるか検討していきたい。

【移住促進について】

【市民】和良地域の空き家活用については、自治会長を通じて情報をいただきながら実施し、本年度は4組の方が移住されている。また移住希望の方の対応を行っているが、空き家等の物件が少ないため、移住のタイミングを逸してしまうことがある。空き家情報はすぐに集まるものではないので、一時的に借りられる住居があればと考えている。市有住宅や教員住宅などを一時的に使用できるようにしていただきたい。

【市長】教員住宅は、いざという時に使用できなければならぬという考え方もあるため、現状において空いている部屋が全て入居可能ということにはできないが、移住者の方が一時的に入居できる部屋数などの程度かなど教育委員会と協議し、活用できるようにしていきたい。